

## 1歳児

# たちからあんだよ 興味しんしん 何でもやってみたい

## 1 発達の特徴

- ・ 歩き始め、手を使い、言葉を話すようになることにより、身近な人や身の回りのものに自発的に働きかけていく。
- ・ 歩く、押す、つまむ、めくるなど様々な運動機能の発達や新しい行動の獲得により、環境に働きかける意欲を一層高める。その中で、ものをやり取りしたり、取り合ったりする姿が見られるとともに、玩具などを実物に見立てるなどの象徴機能が発達し、人やものとの関わりが強まる。
- ・ 大人の言うことが分かるようになり、自分の意思を親しい大人に伝えたいという欲求が高まる。指さし、身振り、片言などを盛んに使うようになり、二語文を話し始める。

### 【行動範囲の拡大】

この時期の子どもの発達の大きな特徴の一つは歩行の開始です。歩けるようになることは子どもにとって大きな喜びであり、子どもは一步一步踏み出しながら行動範囲を広げ、自ら環境に関わろうとする意欲を高めていきます。歩行の獲得は、自分の意思で自分の体を動かすことができるようになることであり、子どもは「自分でしたい」という欲求を生活のあらゆる場面において発揮していくことにつながります。

一人歩きを繰り返す中で、脚力やバランス力が身に付くとともに、歩くことが安定すると、自由に手を使えるようになり、その機能も発達します。様々なものを手に取り、指先を使いながらつまんだり、拾ったり、引っ張ったり、もの出し入れや操作を何度も繰り返します。

また、絵本をめくったり、クレヨンなどでなぐり描きを楽しんだりします。その中で、ものを媒介としたやり取りが子どもと保育者の間で広がり、子どもの好奇心や遊びへの意欲が培われていきます。

### 【象徴機能と言葉の習得】

子どもは、応答的な保育者との関わりによって、自ら呼びかけたり、拒否を表す片言や一語文を言ったり、言葉で言い表せないことは、指さし、身振りなどで示し、親しい保育者に自分の気持ちを伝えようとします。子どもの一語文や指さすものを言葉にして返していくなどの関わりにより、子どもは「マンマほしい」などの二語文を獲得していきます。

子どもは体を使って遊びながら様々な場面やものへのイメージを膨らませ、そのイメージしたものを見立てて遊ぶようになります。このように実際に目の前にはない場面や物事を頭の中でイメージして、遊具などで見立てるといった象徴機能の発達は、言葉を習得していくことと重要な関わりがあります。

### 【周囲の人への興味・関心】

この時期には、友達や周囲の人への興味や関心が高まります。近くで他の子どもが玩具で遊んでいたりと、保育者と楽しそうにやり取りをしていたりすると、近づいて行こうとします。

また、他の子どものしぐさや行動を真似たり、同じ玩具を欲しがったりします。特に、日常的に接している子ども同士では、同じことをして楽しむ関わりや、追いかけてっこをする姿などが見られます。その中で玩具の取り合いをしたり、相手に対し拒否したり、身振りや言葉で伝えようとしたりすることもあります。こうした経験の中で、保育者との関わりとは異なる子ども同士の関わりが育まれていきます。

## 2 教育・保育の重点

- 安心できる保育者との関係の下で、食事、排泄などの活動を通して、自分でしようとする気持ちを育てる。
- 身近な保育者が愛情をもって話しかけ、発語を促していくことで、言葉を使う楽しさを感じられるようにする。
- 身の回りの様々なものに自由に関われる環境を用意し、人やものへの興味や関心を育てる。
- 身近な音楽に親しんだり、体を動かしたりする楽しさを感じられるようにする。

## 3 親育ち・子育て支援 保護者へ発信しましょう・・・子育て支援と家庭の教育力向上に向けて

- ☆ 好奇心が旺盛で何でもやってみたい、何でも自分のものにしたいこの時期の子どもの特徴的な姿を伝え、保護者の不安や悩みを取り除きましょう。
  - ・ よく歩き、よく転びます。行動範囲が広くなり、体の動きが活発になる時期、歩ける喜びであちこち動き回り目が離せません。
  - ・ 友達の持っている玩具を欲しがり、思うようにいかないと大泣きをしたり、時には噛みついたり引っ掻いたりします。
- ☆ 親自身が子どもの面白さをたくさん発見しながら安定して子どもに関われるようにし、子どもの気持ちを汲み取った、温かい関わりが大切であることを伝えましょう。
  - ・ 泣く、拒否する、噛みつくなど大人を困らせ、様々な感情を表出する場面が多いこの時期、言い聞かせるよりも、しっかりと抱きしめて子どもの気持ちを全面的に受容することが大切です。落ち着いてから、「こうして欲しかったのね」と気持ちを汲み取った対応をすると子どもの心は安定します。
  - ・ 大人に対する甘えたい欲求が十分満たされて、初めて他の子どもに関心をもつ余裕や一人で安定して遊ぶ気持ちが出てきます。気持ちを十分に受け止めることが必要です。
- ☆ 感染症にかかりやすい時期であることを伝え、子どもの体の変化を敏感に捉えられるよう、資料を配付するなどして具体的に伝えましょう。
  - ・ 体温、機嫌、食欲など、子どもの日常の状態をよく把握することが大切です。一人で悩まないよう、困ったらすぐに園に相談できるように伝えます。
- ☆ トイレトレーニングが始まります。子どものペースに合わせて進めることの大切さを伝えましょう。
  - ・ 排尿間隔を把握し、排泄を感じた時の子どもの動作を見逃さず、トイレや便器で排泄する経験を重ねていけるようにしましょう。
  - ・ 排泄の自立には個人差があります。園と家庭が協力して、子どもの発達に合わせて焦らずに進めていくことを伝えましょう。
- ☆ それぞれの家庭や保護者の状況を丁寧に受け止め、きめ細かな配慮の下、生活リズムを整えられるよう、支援しましょう。
  - ・ 規則正しい食事と睡眠は子どもの心と体の成長にとっても重要です。骨や筋肉の成長・発達に大きく関係する成長ホルモンは眠っている間に最も多く分泌されます。朝食は朝起きて頭と体を働かせる大事なスイッチであり、朝食を食べることで体温が上がり、頭も体もすっきり目覚めます。

## 4 発達に必要な経験の内容

### 健康

- 歩行が安定してきて行動範囲が広くなり、走ったり、よじ登ったり、方向転換をしたりするなど、様々な運動をしようとする。
- 「自分で」の気持ちが芽生え、手が汚れたことが分かり洗おうとしたり、衣服の着脱を手伝ってもらいながら自分でやろうとしたりする。
- 食べたいという気持ちが高まりスプーンや手づかみで食べる。
- おしっこが出ると教えたり、嫌がらずに便器に座ったりする。



友達と同じようにすることがうれしい  
いろいろな動きをしようとする

### 保育者の関わりのポイント

- ★ 子どもが探索意欲を満たして自由に遊べるよう、身の回りのものについては、常に十分な点検を行うようにする。
- ★ 段差を飛び降りたり、傾斜を上り下りしたり、力を入れて遊具を引いたり押したりするなど、全身を使う様々な遊びの環境を構成し、一緒に楽しむ。
- ★ 自分でやり遂げる力はなくても、しようとする気持ちが高まってくる。手伝われることを嫌がる子どもには、意欲を大切に、焦らずゆったりとした気持ちで見守り、励ましながら接していく。
- ★ 味覚や嗅覚などの発達に伴い食物に対する好き嫌いが出てきて、嫌いなものは強い拒否反応を示す。無理強いをしたり、食べる順番を指定したりせず、自分で食べようとする気持ちを大切にする。子どもの食欲や食事にかかる時間の個人差に十分配慮し、食べる意欲を引き出していく。
- ★ 一人一人の子どもの排尿間隔を把握し、排泄を感じた時の子どもの動作を見逃さず、トイレや便器で排泄する経験が重ねられるようにしていく。
- ★ 感染症にかかりやすい時期である。体温、機嫌、食欲など日常の状態をよく把握する。

### 人間関係

- 自分を温かく受け入れてくれる保育者との信頼関係に支えられて、自分の居場所を確保し、安心感をもってやりたいことに取り組む。
- 身の回りに様々な人がいることに気付き、徐々に他の子どもと関わりをもって遊ぶ。
- 保育者の仲立ちによって、他の子どもとの関わり方を少しずつ身に付けるようになる。

### 保育者の関わりのポイント

- 泣いて訴える、拒否する、手がでしてしまうなど、様々な感情を表出させる場面が多いこの時期、言い聞かせるのではなく、しっかりと抱きしめて子どもの気持ちを全面的に受容する。落ち着いてから、「こうして欲しかったのね」と気持ちを汲み取るようにする。
- 保育者に対する甘えたい欲求が十分満たされて、初めて他の子どもに関心をもつ余裕や一人で安定して遊ぶ気持ちが出てくる。保育者は応答的に関わり、子どもが安心感を得られるようにする。
- あるものを他のものに見立てて遊ぶこの時期、社会性や言語の発達に欠かせない対人関係が深まる。保育者は遊びを一緒に楽しむ中で、子どもが他者の存在を感じ、互いに関わりを楽しめるように援助していく。

## 環境

- 好奇心が盛んになり、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなど、様々な感覚を働かせながら、対象に関わるようになる。
- 探索行動が活発になり、遊びへの興味や関心が広がる。散歩、ままごと、絵本、粘土、積み木などで遊ぶことを喜ぶ。
- 指先を使えるようになり、砂遊びでシャベルを使う、紙や粘土を使って遊ぶ、クレヨンでぐるぐると丸を描くなどを喜ぶ。



いろいろな容器使って、思い思いに砂遊びを楽しむ

## 保育者の関わりのポイント

- ▲ 生活面ではできるだけ子どもの成長に合わせたやり易さを工夫し、ゆっくり時間をかけ、適切に援助しながら、自分でしようとする気持ちを育てていく。
- ▲ この時期は一人で遊べることを大切にする。自分のやりたいことを一人でじっくりと満足できるまで遊べるような環境を作るようにする。
- ▲ 保育者との安定した関係の中で、徐々に身の回りの自然や電車、バス、犬、猫などに興味をもつようになる。自分から関わってみたり、感じたりできるような経験が、無理なく重ねられるようにする。
- ▲ この時期は、危険の判断や行動の抑止力の発達が十分ではない。言葉だけで禁止するより、保育者自身が素早く行動して危険を事前に回避し、子どもが安全に活動できる環境を整える。
- ▲ 指先が発達する時期を生かし、玩具や粘土、紙や布などで指先の操作を伴う遊びを工夫し、遊びの中で様々な手指の動きができるようにする。

## 言葉

- 自分の要求を身振りや指さしで保育者に伝えようとする。
- 言葉の数が少しずつ増え、自分からしきりに話しかける。
- 簡単な言葉遊びや歌遊びを理解して、保育者と一緒に遊ぶ。
- 身近な即興の話などを楽しく話すと、興味をもって聞く。
- 本の中の知っているものの絵を指さして名称を言う。

## 保育者の関わりのポイント

- ◆ 自分の思いを表現したい、伝えたいという気持ちを大切にし、言葉にならない思いを丁寧に受け止める。時には子どもの思いを言葉にして返し、共感し合えるようにする。
- ◆ 保育者の言うことをおうむ返しに繰り返すことが多くなってくる。話したいという気持ちを受け止め、正しい言葉を添えて優しく話しかけるようにし、正しい言葉を身近に感じられるようにする。
- ◆ 子どもが興味をもって見たり触ったり遊んだりしているものの名前を、保育者が言ったり、感情のこもった言葉を添えたりすることで、言葉に親しむ機会をつくっていく。
- ◆ 子どもに話しかけるときは大声を出さないようにし、そばで聞こえる程度の声に心がけ、心地よい声や言葉の響きに親しめるようにする。
- ◆ 子どもの要求はゆっくりと聞き、子どもの気持ちを感じとり、理解して、言葉で確かめるようにする。

## 表 現

- 水、砂、土、紙、粘土など、様々な素材に触れて、全身でその感触を十分に味わう。
- 歌を歌ったり、簡単な手遊びを楽しんだりする。
- 簡単な言葉遊びや歌遊びを理解して、保育者と一緒に遊ぶ。
- リズムに合わせて体を揺すったり、保育者と一緒に体操を楽しんだりする。
- 生活の中の様々な音、形、色、手触り、動き、味、香りなどに気付く。

## 保育者の関わりのポイント

- 身近な環境に興味や好奇心をもって、見る、触れる、探索するなど、子ども自らが関わる中で、体の諸感覚の豊かさや、自分の思いを表現しようとする意欲を育てる。
- 安心できる保育者の存在が感じられる環境で、落ち着いて遊び込める小さめの空間に、子ども自らが手に取り、様々な感覚を働かせることができる遊具や素材を用意する。
- 保育者が歌うわらべうたや簡単な手遊びを通して、ゆったりとやり取りを楽しみ、子どもが安心して自分を表現できるようにする。
- 子どもの感じ取ったことや心を動かされたことに心を傾け、子どもの感動や発見に寄り添っていく。



影を発見。  
自分が動くとき形が変わる???



## 5 実践事例(6)

1歳2か月の頃

## マラカスを持つと思わず体が動き出す!!

動いて遊ぶことが楽しい

Gちゃんは空き容器で作ったマラカスを手に持ってうれしそうにテラスを歩いている。両手のマラカスがうれしくて今にも踊り出しそうなGちゃん。保育者が「ちょうだい」と手を差し出すと「はい」とマラカスを手渡してくれるが、すぐに「ちょうだい」とまた手を出す。Gちゃんの動きに合わせて保育者もリズムカルに動くと、動きが活発になる。

★健康 ●人間関係 ▲環境 ◆言葉 ■表現

★マラカスを握ってテラスを自由に歩くことを心地よく感じる。

▲体が動くとマラカスの音が出ることを楽しむ。

■リズムカルに動かすことを楽しむ。

▲まわりにあるいろいろなものに興味を示す。



◆マラカスを「ちょうだい」というと「はい」と言ったり「いやいや」と首を振ったりするなど、保育者との関わりを楽しむ。

▲テラスでの風通しのよさやさわやかさを感じる。

## 👉 保育者の関わりポイント

☆ 発達や興味関心を捉えた「思わず動きたくなる」「思わず触れてみたくなる」環境づくりと保育者の適切な援助が、様々な感覚や体の動き、指先の機能を高めていく。その際、行動範囲が広がり、好奇心が旺盛になってきていることを踏まえ、安全な場づくりなどに保育者はきめ細かく配慮する。

- ・ものを握る、いじる、つまむ、手をたたくなどの動きを積極的にするようになってきたGちゃん。体も自由に移動させて遊ぶようになり、聞く、見る、触るなどを通して、様々な感覚や体の動き、指先の機能が高まっている。
- ・乳飲料の空き容器で作ったマラカスを見つけ、両手に握ったGちゃん。体を動かすと「ガラガラ」と音が出るので大喜び。その楽しさに保育者が共感し、同じように動いたり言葉や表情で認めたりしていくとさらに全身を揺らして喜ぶ。
- ・風通しのよいさわやかなテラスの環境がGちゃんの心と体を開放的にさせたようで、保育者と顔を見合わせながら何度も何度も体を揺らして音が出るのを喜ぶ。
- ・ちょうど握れる程の大きさで身近な容器で作られたマラカスはGちゃんにとって安心して関わられる遊具であった。

## 5 実践事例(7)

1歳5か月の頃

## ぼくだってわたしだってやれるよ!!

できたつもりで満足

保育者にズボンをはかせてもらっているHちゃんの近くで、保育者の様子をじっと見ていたIちゃんが自分で自分のズボンを持ってきてはき始める。いつも保育者にはかせてもらっているように足を上げ、ズボンの形を見ながら一生懸命に足を入れようとしている。やっとズボンに足が入ったものの、ズボンの片方に両足を入れてしまう。困った表情のIちゃんの様子をみて、保育者が少しだけ手伝うと両足がすっぽりとズボンに入って成功!!自分ではけたつもりになって満足気に立ち上がったIちゃん。得意げに保育者の顔を見る。「ズボンはけたね」と保育者が声をかける「できたでしょ」という満足げな顔になる。

★健康 ●人間関係 ▲環境 ◆言葉 ■表現

★自分でできることを自分でやってみたいと思う。

★足と手でバランスを取りながら体を動かす。

●「自分でやった」という思いを保育者に認めてもらい、うれしいと感じる。

●友だちのしていることに関心をもつ。

★衣服の着脱に興味をもつ。

●友だちのしていることをやってみたいと思う。

▲ズボンの形を子どもなりにわかってもらう。

●自分の思いが保育者に伝わってうれしいと思う。



## 👉 保育者の関わりのポイント

☆ 「自分でしたい」という意欲を大切にして、保育者は子どもを見守り、援助していくことが重要である。保育者に見守られ、援助を受けながら、自分で「できた」という満足感を得た体験は、子どもの「自分でやってみよう」とする力をさらに培っていくこととなる。

- ・ 「自分で」の気持ちが芽生え、手が汚れたことが分かり洗おうとしたり、衣服の着脱を手伝ってもらいながら自分でやってみようとしたりするIちゃん。
- ・ この気持ちの芽生えを大切にしたいと考え、自分でズボンをはき始めた姿を温かく見守る。左足をズボンに入れる時には右足が条件反射のように高く上がり、今にも横に倒れそうになりながら懸命に頑張るIちゃん。
- ・ ズボンがどういう形になっているのか、体をどのように動かしたらはけるのか、もてる力を精一杯出しながら取り組んでいる途中、ズボンの片方に両足が入ってしまい戸惑ったIちゃんを見て、「こっちに、もう一つトンネルがあるね。」と言いながら関わると、ズボンをよく見て左足を入れ替える。両方の足が上手にズボンに入って、やっとのはけると思わず保育者を見てにっこりする。

## 5 実践事例(8)

1歳8か月の頃

## できるよ できるよ!!

できるようになったことがうれしくてじっくり遊ぶ

保育者が作った手作りの穴落とし玩具に興味をもったJちゃん。保育者が遊び始めるとその姿を見て自分から穴に落とすための小さな玩具（ペットボトルのふたを二枚合わせた中にどんぐりが入っている）を手に取る。手に取ったとたんにカタカタと音がし、その音に楽しそうに何度も玩具を振って喜ぶ。そのうちに大きな容器のふたの穴に保育者が「ポットン」と入れているのを見て入れようとする。「あれっ入らない」といった表情で一息懸命押し込んで「うーん」と声を出しながら頑張っていると「ポットン!!」素敵な音がして中に入った。「入ったね! いい音がするね」と保育者に言葉をかけられ、にっこりとして遊び続ける。

● 保育者にできたことを認められてうれしい。

★ 好きな遊びや場所を見つけじっくり遊びを楽しむ。

● 保育者や友達がしていることへ関心をもつ。

▲ ■ 手にとって触れたり振って音を鳴らしたりしているいろいろな音や感触を楽しむ。



★健康 ●人間関係 ▲環境 ◆言葉 ■表現

★ 目と手と感覚を使い大きさや穴の位置を感じながら穴の中に入れるのが楽しい。

▲ ■ やつと「ポットン」と入ったとき、音がしてとってもうれしい。

★ 次第に上手になってきた、指先を使って自分でできることを繰り返し楽しむ。

## 👉 保育者の関わりのポイント

☆ 周囲のものに関心を持ち、いろいろなものに触れて遊びたくなる時期の子どもには、自分のやりたいことを一人で満足できるまで遊べること、また、そのために遊びに没頭できる環境を構成することが重要である。

- ・好きな遊びや場を見つけて、じっくりと一人遊びを楽しめるようになってきたJちゃん。一人で遊べるのが大切であると考え、自分のやりたいことをじっくりと満足できるまで遊べるような場や時間を保障できるようにする。
- ・指先が発達し、できるようになったことを繰り返し楽しんでる子どもたちに、型落としや型はめ、積んだり倒したりする小さな積み木などをじゅうたんの片隅に置いた。始めは穴の中になかなか入らなかったが、何度も繰り返し試していくうちに「ポットン」と落ち、いい音がして穴の中に入った。その時を逃さず保育者が「入ったね」と言って一緒に喜ぶとJちゃんの顔がほころぶ。
- ・試したり、動かしたりできる遊具や場を保障し、遊びに没頭できる環境をつくるのが自分なりの遊び方や楽しみ方を獲得していくためには重要である。
- ・反面、自分の思いややりたいことがはっきりしてきた中で、友達の手を噛む、引っ掻くなどのトラブルが増えてくる。一人一人の思いを肯定的に受け止めながらも相手の痛さに気付くような関わりが大切である。



## 5 実践事例(9)

2歳の頃

## わくわく どきどき お外の探検 !!

歩行もしっかりして探索活動も広がる

玩具で遊んでいる時も、泣いていても保育者の「お散歩に行こうね」という言葉で帽子をかぶったり、靴を履きに行ったりする子どもたち。みんな散歩が大好き。「今日はワンワンをみて公園に行こうか」と具体的に話すときらきらした顔になり、とてもうれしそう。歌をうたったり、道端のアリを見つけて立ち止まったり、木々や草花に目を向けては、「きれい」「あかいはな」など思わず感じたことを言葉で表したり、走ったり跳んだり、探検遊びが続く。

★健康 ●人間関係 ▲環境 ◆言葉 ■表現

▲風、空、土、草、木など、見たり触れたり匂いをかいだりする。

★自然の中で心も体も解放され、走ったり歌ったり思い切り遊ぶ。

★でこぼこ道や段差などを察知しながら歩く。

◆自分の思いを保育者に言葉で伝える。



●友達と一緒に走る楽しさを感じる。

★公共の道を安全に歩く。



■自然に触れて遊ぶ中で草の感触や花の色の美しさ、チョウチョウが飛ぶ姿を見て感動する。

## 👉 保育者の関わりのポイント

☆ 歩くことや走ること、砂や土、風に触れることなど、散歩は子どもの体力だけでなくたくさんの感覚を刺激する。子どもたちの言葉にならない発見や感動をしっかり受け止められるよう、保育者は感性を研ぎ澄ますことが大切である。

- ・ 行動範囲が広くなり、走ったり、方向転換をしたりするなど、様々な運動をしようとする子どもたちにとって、公園への散歩は楽しい活動である。
- ・ 園から公園までは、交通安全に気を付けながら道の端をゆっくり歩いていく。途中「どこの園なの 何組さん?」と地域の人に声をかけてもらおうと、うれしくなって「〇〇園」と大きな声で答える子どももいる。こんなやり取りが言葉を使う楽しさや、地域の人への親しみを育てていく。
- ・ 園の近くの公園は子どもたちにも安心感があり、走ったり、跳んだり、虫を探したり、あれもこれもやってみたいという、体と心の弾みが伝わってくる。
- ・ 子どもの視線は地上50cm。子どもたちの発見は新鮮で驚きもいっぱいであり、その思いをしっかり受け止められるよう保育者は感性を研ぎ澄ますことが大切である。
- ・ 反面、いろいろなものを口に入れてしまう時期がまだ過ぎていない子どもの、草や石などの誤飲への配慮や、道路や園内での安全確保のために、行き帰りのコースや園内の状況を把握し、突発の出来事に対応できる連絡方法などの備えが大切である。

## 6 必要な経験に向けての工夫及び教材・玩具など

### 歩けるようになった楽しさを味わえるように

- 転がるボールや動く玩具を追いかけて遊ぶ。
- 安心できるスペースの中で歩くことを楽しむ。

### 伸び伸びと体を動かして遊べるように

- 園の周りをのんびり散歩することを喜ぶ。
- 園庭で、好きな場所や遊具を見つけて遊ぶ。
- マットを何枚も重ねてその上で転がったり飛び降りたりして遊ぶ。
- 巧技台で作った低い滑り台を、よじ登ったり滑ったりする。

### 安心して遊びたい遊びができるように

- 保育者と一緒に、積み木を積んだり崩したりすることを繰り返し楽しむ。
- 壁や床に大きな紙を貼って自由になぐり描きを楽しむ。
- 粘土をちぎったり、転がしたり、伸ばしたり、たたいたりするなど、好きな動きや感触を楽しむ。

### 簡単な言葉遊びや歌遊び、手遊びを楽しめるように

- 手遊びや歌遊び、リズムに合わせて体操をすることを楽しむ。
- 絵本や紙芝居を見て、言葉そのものの音やリズムの響きの面白さを楽しむ。

- ・ボール
- ・乗用玩具
- ・砂場用シャベル
- ・バケツ
- ・ジョーロ
- ・お皿
- ・小さいカップ
- ・庭の花、蝶やダンゴムシとの出会い
- ・フロアカー
- ・低いすべり台
- ・クッション積み木 など

- ・型おとし
- ・ボタンつなぎ
- ・クレヨン・粘土
- ・小さな積み木 など

- ・手遊び 歌遊び
- 「あたまかたひざぽん」
- 「いとまき」
- 「手と手と手と」 など

- ・絵本
- 「さよならさんかく」 「くだもの」 「きんぎょがにげた」
- 「うたえほん」 「もこもこもこ」 「じゃあじゃあびりびり」
- 「ぴよーん」 「でてこいでてこい」 「がたんごとんがたんごとん」
- 「くっついた」 「ととけっこうよがあけた」 「ぶーぶーじどうしゃ」
- 「じのないえほん」 「たまごのあかちゃん」 「だっこだっこねえだっこ」
- 「どうぶつのおかあさん」 など